

## 結核接触者健診における QuantiFERON® TB 検査導入の意義

コワダアキコ 小和田暁子\*      ハマダユキエ 浜田有希江<sup>2\*</sup>      アオキマリコ 青木真里子<sup>2\*</sup>      コオリヤマヨウイチロウ 郡山洋一郎<sup>2\*</sup>  
 サカノ ショウジ 坂野 晶司<sup>3\*</sup>      テラニシ アラタ 寺西 新<sup>4\*</sup>      クロイワ キョウコ 黒岩 京子<sup>5\*</sup>      モリ トオル 森 亨<sup>6\*</sup>

**目的** QuantiFERON® TB 検査（以下、QFT 検査）は、ツベルクリン反応検査とは違って、過去の BCG 接種の影響を受けずに結核感染を診断できる新しい検査方法である。この QFT 検査を、2005年6月より足立保健所衛生試験所に直営導入し、保健所結核接触者健診における行政検査として実施している。本報告は、その後2006年3月までの実施状況を分析し、検討するものである。

**方法** QFT 検査対象者は、2005年6月から2006年3月にかけて、肺結核症患者と接触して接触者健診の対象者となった足立保健所管内に住む区民のうち、QFT 検査を受けることについて同意した者67人である。QFT 検査実施時期は、接触者が感染源である肺結核患者との最終接触後2か月以降である。すべての QFT 検査は足立保健所衛生試験所細菌検査部門で実施した。また、ツベルクリン反応検査もできる限り同時に実施した。

**結果** QFT 検査を実施できた接触者総数は67人であった。QFT 検査結果は、陽性が9人、判定保留が5人、陰性が53人であった。このうち、QFT 検査と同時にツベルクリン反応検査を実施できた接触者は48人、そのうち発赤長径が30 mm 以上の者は22人であった。ツベルクリン反応で発赤長径が30 mm 以上の者で QFT 検査が陽性となった者は4人、発赤長径が30 mm 未満であった26人の中で QFT 検査が陽性となった者は5人であった。QFT 検査が陽性となった9人については化学予防を指示した。このように QFT 検査の導入によって、従来のツベルクリン反応検査に比してより精度の高い潜在結核感染の診断が可能になった。

**結論** 足立保健所では、既存の設備・検査技術を生かして衛生試験所細菌検査部門に QFT 検査を直営導入した。このことにより、QFT 検査の持つ「採血後12時間以内でできるだけすみやかに培養を開始する」という検査制限事項を容易に克服できた。さらに接触者健診の成果としてより精度の高い化学予防対象者の選別が可能になり、保健所の対人保健サービス部門と検査部門の密な連携による保健所機能強化につながった。

**Key words** : QuantiFERON® TB 検査, 接触者健診, 保健所機能強化, 化学予防

\* 葛飾区保健所金町保健センター

2\* 足立区足立保健所衛生試験所

3\* 台東保健所保健サービス課

4\* 東京都教育庁学務部学校健康推進課

5\* 足立区足立保健所

6\* 国立感染症研究所ハンセン病研究センター

連絡先：〒125-0042 葛飾区金町 4-18-19

葛飾区保健所金町保健センター 小和田暁子